



⑦○公田名主須藤家跡

この家の前ではかむりものを取り長屋門に向かって頭を下げて通行したといわれている。

⑧○富士塚山・猪落とし 公田と岩瀬の境界

岩瀬桂公田の人たちが良く集まっていた、春は共同で花見をしてといわれている。猪を追い落とした穴がある。今は浅くなっている。

⑨○富士塚山富士講碑

岩瀬桂公田の人たちの名前あり、万延元年(1860)と刻む

⑩○神明社公田町445

桂、公田村の鎮守

⑪○旧神明社跡

公田町415今は神主さんの住まいになっている。

⑫○梵天社碑 公田町198

昔疫病があり行者の勤めで祀ったという。

⑬○六十六部供養塔 公田町258

宝暦5年回国供養の一種66ヶ所の礼所に法華経を納める、六部さんという白装束・白頭巾・錫杖・厨子(経文仏像を納む)を背負う巡礼。ここの石渡家が講の中心であったと思われる。

⑭○古道紹介

七曲がりから北の大道茶道橋又は南の大道駒観堂橋を経てん川北岸を下り旧天神橋を渡る、更にん川南岸を下り原(北村)名主の前を永林寺に進み同寺山裾を廻ってバス道(3号線)をパチンコ店の横に渡る、(3号線)の裏側の小道を女子大の塀で左折岩瀬につながる道が桂公田の主要生活道の古道であった。この小道に屋号を〔おちゃや〕という店があり往来の人にお茶を振る舞っていたという。永林寺の山がこの古道の辺りまで続いていて(3号線)は後世掘削されたものだと土地の古老から伺っている。

